

「メデイリック」第3回「WORKじよじよ」

「バイリー」

登場人物

ゲイリー ペイリー・チャイルド

マネージャー シロスコフ

記者 テオ・ポー

カメラマン 野彦

※記者、ゲイリー、マネージャー、板付き

【L・明転】

記者 「つまり今年の秋のカラーは黒だと」

ゲイリー 「トレンドって言われてるカラフルコーデは逆につまらない」

記者 「カラフルコーデは今年のトレンドではないと」

ゲイリー 「うーん、私はトレンドっていう言葉が好きじゃないの。持つてる服がおかしくなるのは流行のせいではないのよ」

記者 「なるほど」

【M・おしゃれーCー】

ゲイリー 「去年の服が似合わなかったらあなたが前進したってこと」

記者 「おお！」

ゲイリー 「世間に流されずにお気に入りをきていれば、作った笑顔は必要なくなる」

記者 「おお！ありがとうございます！」

ゲイリー 「風はすべて追い風」

【M・F・O】

記者 「素敵です！」

ゲイリー 「運勢は生まれた日よりも選んだ服で変わると思う。私はエブリデイ大吉」

記者 「羨ましい！：続いてゲイリーさんのパーソナルな部分をお聞きます」

ゲイリー 「はいはい」

記者 「スタイリストとして世界を相手に活躍するゲイリーさんですが活躍の秘訣とは？」

ゲイリー 「おりこうにすることかなー」

記者 「おりこう？」

ゲイリー 「おりこうじゃなきゃ、おしゃれはできない」

記者 「素敵：ゲイリーさんは同姓愛者、いわゆるゲイであることを世間に公表していますね？」

ゲイリー 「そうね」

記者 「ファッション業界ではトム・フォードやマーク・ジェイコブス、ジャンニ・ペルサーチなど多くのゲイの方が活躍して

います。その理由は何だと思えますか？

ゲイリー 「ゲイはね自分を根っこから否定しない。自分をまるごと肯定しない。だから、飾らないように飾れるのかな」

記者 「すごい！流石です。芸能界にもゲイリーさんのファンは多いです。この前、中条あやみさんが雑誌のインタビューで公言していました」

ゲイリー 「あの子、素敵よね。男に媚びてなくて。自分のことも好きそうだし」

記者 「自分を好きでいることが大切ですか？」

〔M：おしゃれーC〕

ゲイリー 「私はね、自分を好きな自分が嫌い。自分を嫌うのはもつと嫌い」

記者 「おお！」

ゲイリー 「生まれ変わるなら、またわたしでいい」

記者 「おお！」

ゲイリー 「わたしの上にある空は、何度でも晴れる」

記者 「かっこいい！」

〔M・C O〕

〔SE・ブザー音〕

記者 「あ、カメラマンからだ。ちよつとお電話、失礼します」

マネ 「はい」

※記者、はける

ゲイリー 「…中条あやみ、可愛いねえ」

マネ 「そうですね」

ゲイリー 「SEXしたいなあ」

間

ゲイリー 「中条あやみとSEXしたいな」

間

ゲイリー 「俺は中条とSEXがしたい！」

マネ 「男が出てますよ！」

ゲイリー 「うるせーよ！いいだろ2人の時ぐらい！」

マネ 「誰が見てるかわからないですから」

ゲイリー 「あーもう疲れるわ〜」

マネ 「我慢してください」

ゲイリー 「むかつく〜」

マネ 「何にむかっているんですか。」

ゲイリー 「風潮だよ！ゲイとかホモの方がファッ

ション業界においては優れているという

この風潮！ゲイとかホモの方が特別な感

覚があるからお洒落だという、ファッシ

ョン業界においてのこの風潮！」

マネ 「でもその風潮のおかげで成功されてる

んですから。ビジネスとしてゲイでいて

ください」

ゲイリー 「いや、普通に勝負させてくれよ」

マネ 「ダメです」

ゲイリー 「なんで」

マネ 「先生はゲイのフィルターがなかったら

大したことないですから」

ゲイリー 「何だと!？」

マネ 「とりあえず、トレンドの逆の事を言っ

ておけばそれっぽくなるからって手口ば

つかだし」

ゲイリー 「…それっぽくなるからな」

マネ 「ここ5年くらいは『黒が来る』しか言

つてないですよ」

ゲイリー 「間違いないからな」

マネ 「まあでもインタビューに答える様は本

当にすごいです。見事な才能です」

ゲイリー 「ゲイとかホモは何言ってもいいし、発

言が深いという日本の風潮な」

マネ 「名言もポンポン出るし」

ゲイリー 「あんなもんルミネの広告ちよつと変え

ただけだよ」

マネ 「えー(調べる)あ、本当だ!」

ルミネの広告が複数枚表示される

マネ 「え?大丈夫ですかこれ」

ゲイリー 「ばれなきやいだろ。ばれなきや」

マネ 「ちよつと怖いなり…。とにかく、今の

ゲイスタイルでいきたいんでくれぐれも

さっきのような男の一面はもう出さない

ようにお願いします」

ゲイリー 「あーむらむらする〜」

マネ 「こら!」

※記者、登場

記者 「すいません、カメラの方が遅れてまし

て…」

ゲイリー 「むらむらする」
記者 「むらむら？」

間

ゲイリー 「鈴木亮平の筋肉見るとむらむらするー！」

記者 「そうなんですわね！」

ゲイリー 「ゲイだからね」

記者 「今度、中条さんと対談なんてどうですか」

ゲイリー 「もちろんよ！ね？」

マネ 「…そうですね」

ゲイリー 「何だその返事ー？どどすこしたるか

ー？どどすこ！」

マネC 「何だこいつ」

記者 「それではインタビューを再開します。

世の女性が良い女になる秘訣は何でしょうか？」

「M・おしゃれーCー」

ゲイリー 「退屈しないこと。寝不足より、悪口より、退屈がわたしをブスにする」

記者 「なるほど！」

ゲイリー 「そして素直でいること。素直な女は嘘泣きはする。作り笑いはしない」

記者 「おお！」

ゲイリー 「何より、自分にあつたファッションを着ること。男はね、似合ってるから、脱がせたくなる」

「M・F O」

記者 「おお！…あれ、何かどつかで聞いたことあるような…」

マネC 「やばい…」

「S E・ブザー音」

記者 「あ、カメラマンが到着したみたいです
ね。ちよつと失礼します」

※記者、はける

マネ 「ちよつと！ルミネの広告をパクってるのばれかけましたよ！」

ゲイリー 「あせつたー」

マネ 「パクるの禁止で」

ゲイリー 「えーそれは無理だよ…」

マネ 「時間の問題なんで、自ら生み出してくだ
さい」

ゲイリー 「もう〜何なんだよ！」

※記者、カメラ、登場

記者 「カメラ到着しました」

カメラ 「お待たせして申し訳ありません。よろ
しく願います」

マネ 「よろしく願います」

記者 「ここからは撮影も交えてインタビュー
を行っていききたいと思います」

ゲイリー、ぼーっとする

記者 「ゲイリーさん？」

マネ 「先生！」

ゲイリー 「あ、ごめんなさい。成宮君のこと考え
てた」

マネ 「ゲイですわ〜」

ゲイリー 「ゲイなの〜！」

記者 「なるほど…では続いては恋の質問にし
たいと思います。恋についてどう思いま
すか？」

[M・おしゃれーC]

ゲイリー 「恋してないと、弱くなる。恋ばかりだ
と、脆くなる」

ゲイリー、カメラに決め顔。カメラ、パシャパシャ

記者 「恋をする瞬間はどんな時ですか？」

ゲイリー 「試着室で思い出したら、本物の恋だと
思う」

ゲイリー、カメラに決め顔。カメラ、パシャパシャ

記者 「恋を実らせる秘訣とは？」

ゲイリー 「ちゃんと欲しがる女だけ、欲しがられ
る女になれる」

ゲイリー、カメラに決め顔。カメラ、パシャパシャ

記者 「おお〜！…やっぱりどつかで…」

[M・F O]

カメラ 「確か…ルミ…」

マネ 「ルミネの広告ですよね！」

記者 「そうだ、ルミネだ！全部ルミネの広告
に似てる！」

ゲイリー 「自分を励ませるくらいには自分のこと
素敵にしておきたい！」

カメラ 「それ今年のやつ！」

マネ 「あの！あれ！…先生の言葉を引用され
ているんですよ！」

記者 「えー本当ですかー？」

マネ 「先生、ちよつと」

離れる二人

ゲイリー 「わたしらしくをあたらしく」

マネ 「おい！もうルミネのやつは使わないで
ください！」

ゲイリー 「無理だろ」

マネ 「訴えられるから」

ゲイリー 「うゝゝゝわかつたよ！」

記者 「大丈夫ですか？」

マネ 「大丈夫です。続けてください」

記者 「では、続けます。恋と愛の違いと
は？」

間

「M・おしゃれーCー」

ゲイリー 「愛ちゃんはいるけど恋ちゃんはいな
い」

「M・F・O」

カメラマン反応せず

記者 「それはどういう？」

マネC 「ダメだ…」

ゲイリー 「愛ちゃんっているけど、恋ちゃんつて
いないでしょ？」

記者 「そうですけど…」

マネ 「はいー取材終わりですー」

記者 「え？」

マネ 「以上です。ありがとうございました」

記者 「まだ…」

マネ 「もう十分でしょう。帰ってください
い！」

記者 「じゃあ、最後に一つだけ。この写真見
てもらえますか？」

二人に写真を見せるカメラマン

マネ 「これは…」

記者 「見ての通り、ゲイリーさんが女性とラ
ブホテルから出てきたところですよ」

マネ 「え！？？」

ゲイリー 「ああ！ワールドカップの時のあのスポ
ーツバーの女だ！くそ！スポーツバーの
女！」

記者 「ゲイリーさんはゲイのはずですよ？
どういうことですか？」

マネ 「それは……」

記者 「ゲイの姿は仕事上だけの仮の姿で本当
は普通の男性だとか？」

マネ 「それは……その……」

カメラ 「はつきり言いなさいよ！ああん！？」

記者 「この人、ゲイなんです。」

マネ 「え？」

カメラ 「ゲイなの！？ゲイじゃないの！？」

記者 「どうなんですか？ゲイリーさん！」

ゲイリー 「……そうだ。私はゲイではない」

マネ 「先生！」

記者 「世間を騙していたんですね」

カメラ 「このゲス野郎！」

ゲイリー 「私はゲイではない！……バイセクシャル
だ！」

間

記者 「……バイセクシャル。……そういうことな
んですね！だから、独特な感性をお持ち
なんですね！」

ペイ 「そう。そう」

カメラマン、ゲイリーの手を握り

カメラ 「希望」

記者 「失礼しました！」

※記者、カメラはける

ゲイリー 「バイって便利だな！」

マネ 「ですね！」

【し・暗転】

——了——